



競り合う一般「三菱ケミカル」と「高陽東高校男子」。



(上)ゴール前の攻防。追いつける「市陸協」。(下)ゴールテープを切る「小方中女子」は3位入賞。

いだてん、大竹路を駆ける

総合市民会館(スタート・ゴール)

68回目を迎えた新春の伝統レース、大竹駅伝競走大会。冬晴れの下、90チームが参戦し、健脚を競いました。力の限り走り抜き、たすきをつなぐと同時に倒れ込むランナーや、ゴール間際で必死に競り合う白熱した場面に、沿道から熱い声援が送られました。

三菱ケミカルの石川勇治さん(立戸2)は、「2年ぶりに出場しました。駅伝はチームプレイで、一人が頑張るだけではだめです。今日は私が足を引っ張りましたが(笑)」と、走り終えて心地良さそうな表情。

力走の後は、選手たちは振る舞われたぜんざいを食べながら、今日の走りの話に花が咲いたようです。



両手を広げフィニッシュ！
広島西医療センターチーム
につしーくんの応援はあつ
たかな？

(右)市民会館前中継所で仲間のたすきを待ち受ける「みそのRC」。(左)光明寺で折り返すアンカーの「玖波中男子」。



1/13



(左)シルバーロード中継所で、たすきを託す「大竹中女子」。(右)ボランティアスタッフの力で支えられる大会。



FB



12月22日 観光資源化の検証で工場夜景撮影ツアーを実施し、市内外から24人が参加。写真家の小林哲朗さんから撮影方法を教わり、市街地を見渡せる高台と工場の近くから撮影。大阪から参加の村上育子さんは「女性グループが楽しめるよう、工場夜景や歴史散策などを組み合わせたら」と観光化に向けた感想でした。



1月12日 あいにくの空模様のためアゼリアホールで「出初式」が挙行政。消防団員など200人以上が参加。式典は功労者の表彰などの後、新たな仲間となる団員(写真)が紹介され、「大竹消防歌」を歌い締めくくられました。外では市民団体の協力で、豚汁うどんなどが振る舞われ、多くの人が舌鼓を打っていました。



(上右)懇親会で旧交を温めます。(上左)自撮りで晴れ姿をパチリ。(中)華やかな姿の教え子に囲まれ、先生の頬も緩んでいます。(下)男子も女子も和服でばっちり決めました。



1/14

晴れやかに、新成人

アゼリアホール

新成人148人が出席した「成人のつどい」が催され、来賓、保護者、恩師らが、社会人としての門出を祝いました。新成人を代表し実行委員長の江口萌さんと中村亮太さんが「二十歳の誓い」で決意を表明。続く吉田力也さん、木村智子さんが、それぞれの親に感謝の言葉を述べました。吉田さんは、母親への感謝の思いを伝え、声をつまらせる場面も。

※ (FB)の文字があるものは、市の公式フェイスブックにも掲載しています。



(上)スマホを構えて、わが子の晴れ姿を激写。(下)裏方を務める実行委員です。

(下)にこやかにピースサインのポーズ。大竹中出身者の記念撮影。(右)「自分が働くようになり、母親一人の手で育てることの大変さが分かるようになりました」と吉田さん。(中)大役を担った江口さん。「広報紙を見た母に勧められ実行委員に応募しました」。(左)「京都で一人暮らしを始め、ふるさとのことを改めて考えました」と木村さん。

